

7. 教育センター

教育センターは、本学医学・看護学の卒前ならびに卒後教育の支援組織として、教育を推進する。これらの活動を通して、東京慈恵会医科大学の発展に寄与し、国民のための医療者教育の向上に貢献することを目的とする。卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動について、教育センターは支援する。教育センター規程より、教育センター長、部門組織、担当業務は次の通り。

教育センター長 福島 統 教授

部門組織

- (1) 医師キャリアサポート部門
 - ① 医学教育研究室
 - ② 教育開発室
- (2) 看護キャリアサポート部門
- (3) シミュレーション教育部門
- (4) 地域医療支援部門
- (5) 教育 I R 部門
- (6) アドミッション部門

教育センター業務

- (1) 医学科教育の支援業務に関する事
- (2) 看護学科教育の支援業務に関する事
- (3) 看護専門学校教育の支援業務に関する事
- (4) 大学院教育の支援業務に関する事
- (5) 卒後教育の支援業務に関する事
- (6) 地域医療者教育に関する事
- (7) 教育関連補助金獲得および教育補助金事業の管理・運営に関する事
- (8) シミュレーション教育施設の管理運営に関する事
- (9) 教育情報基盤支援業務（e-learningを含む）に関する事
- (10) 学校法人主催公開講座の企画、調整、実施支援に関する事
- (11) 教育 I R に関する事
- (12) その他、本学教育に関する事

事業報告

1) 教育に関する公的補助金にかかる事業

- A. 平成28年度文部科学省大学教育再生戦略推進費「課題解決型高度医療人材養成プログラム」
山口大学を代表校とし、本学が連携5大学のひとつとして、取組「慢性の痛みに関する教育プログラムの構築」事業の推進を行った。本学の事業責任者は上園晶一教授（麻酔科学講座）が担当。事業期間は平成28年度～32年度。
- B. 平成29年度大学教育再生戦略推進費「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」
筑波大学を代表校とし本学が連携13大学のひとつとして、事業「関東がん専門医療人養成拠点」を申請し、採択を受けた。本学の事業責任者は矢野真吾教授（腫瘍・血液内科）が担当。事業期間は平成29年度～33年度。
- C. 平成30年度課題解決型高度医療人材養成プログラム「精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成」
筑波大学を代表校とし茨城県立医療大学・東京慈恵会医科大学が連携大学として、事業「精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成」を申請し、採択を受けた。本学の事業責任者は繁田雅弘教授（精神医学講座）が担当する。事業期間は平成30年度～34年度。

D. 感染症医療人材養成事業補助金事業

令和2年度第三期補正予算文部科学省感染症医療人材養成事業を申請し、選定された。

- ・事業名：東京慈恵会医科大学 感染症医療人材養成事業
- ・事業推進責任者：救急医学講座 武田 聡 教授
- ・補助期間：2021年3月～2022年3月31日

E. 経常費補助金私立大学改革総合支援事業タイプ1、タイプ3

改革総合支援事業タイプ1「Society5.0の実用に向けた特色ある教育の展開」、タイプ3「地域社会への貢献」の補助金申請を行い、採択には至らなかった。

F. 経常費補助金「情報の公表」

教育情報の公表について、関係部署からデータ提供の協力を得て、令和2年9月に本学ホームページに掲載し、教育情報の公表を行った。

G. 遠隔授業補助金事業

令和2年度文部科学省遠隔授業補助金事業「e-learningとテレビ会議の遠隔授業活用の環境整備」を申請し、選定された。事業期間は令和2年度の単年度。

2) 教育IR部門

今年度の特徴としては、本年度受審予定であった医学教育分野別評価の2巡目が新型コロナウイルス covid-19の影響により2022年度に延期となった。学生の授業も covid-19感染症対策のため対面授業ではなく遠隔授業を併用するなど通常通りの授業を行うことができなかった。このような状況の中で学生の学修状況にどのような変化があったのか、教員の教材作りに苦労したこと、教員や学生への事務組織としての対応などについて遠隔授業についてのアンケートを行った。

3) 地域医療支援教育プログラム

(1) プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム

地域医療を行っている医師を対象に「プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム」を松島 雅人教授（臨床疫学研究部・教育センター）を責任者として実施した。

2018年度生・受講生13名、2019年度生・受講9名、2020年度生・受講5名を受講生として、講義（eラーニング）を6コース、ワークショップを6回実施した。コロナ禍の中、例年行っている対面でのワークショップをzoomで開催し、良好に推進された。

4) 看護学教育プログラム

看護キャリアサポート部門の研修担当者（奈良京子）と臨床4機関の研修担当者の協力のもと、以下の教育プログラムを実施した。

(1) エデュケーションナース研修

企画したが、新型コロナウイルス感染拡大予防の為中止した。

(2) 基礎教育と臨床の交流研修

企画したが、新型コロナウイルス感染拡大予防の為中止した。

(3) ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム

企画したが、新型コロナウイルス感染拡大予防の為中止した。

(4) 認定看護管理者教育課程 フェーストレベル（2019年度開講）

企画したが、新型コロナウイルス感染拡大予防の為中止した。

(5) その他

新型コロナウイルス感染症拡大のため、対面での教育が不可能な時期に、慈恵4病院の臨床看護師及び教職員、学生の教育にe-ラーニング・Moodleの活用を推進し、研修・授業などの開催を支援した。

- ・Moodleコンテンツ作成：新橋8件、葛飾5件、第三3件、柏7件 計24件

（のべ利用対象者：看護師4,975人、医師1,579人、その他メディカル439人、医学生120人、看護学生156人、計7,290人）

- ・ナーシングスキル作成支援：新橋4件

・ZOOM（講義）活用支援：新橋1 葛飾1，第三2，柏1，計5件

看護管理者および認定・専門看護師を中心にeラーニングの効果的な利用のための経験を促せた。今後、更にICTの活用支援が必要とされる。

5) シミュレーション教育支援

シミュレーション教育施設委員会（委員長：福島統教授）が中心となり、シミュレータ機器の選定、購入などの機器整備を行い各機関のシミュレーション教育施設の充実を図るとともに、シミュレーション教育施設の管理運営を行った。

コロナ禍における感染対策として【シミュレーション教育施設使用時の感染防止対策ガイドラインおよびチェックリスト】を作成し、利用時の対応を標準化した。文科省の『感染症医療人材養成事業』に救急医学講座とコラボレーションし申請の結果、採択された。2021年度102,875千円の予算を得て、感染症に関わるシミュレーション教育の充実のために機材購入及び企画運営を準備した。

各機関の利用状況は、西新橋校238件、国領校97件、葛飾医療センター715件、柏病院72件、合計1,122件の利用であった。

6) ICT活用教育支援

(1) eラーニング

卒前・卒後教育教材の作成とeラーニングのサーバ等のシステムを管理し、利用支援を行うとともに、教材作成を支援した。eラーニングの実績は年間839コース8,679回であった。内訳は次の通り。

- ・医学科学生 267コース、2,611回
（3年次症候学演習、4年次基本的臨床技能実習など）
- ・看護学科学生 183コース、2,419回
（2年次情報科学、3・4年次在宅看護学実習など）
- ・看護専門学校学生 46コース 424回（母性看護学概論、領域別実習）
- ・慈恵第三看護専門学校学生 111コース 1,457回
（看護理論と看護の歴史、老年看護学実習Ⅰなど）
- ・慈恵柏看護専門学校 108コース 1,120回
（人体の構造と機能、看護英語など）
- ・大学院医学系専攻 11コース、79回（医学研究法概論、医の倫理など）
- ・大学院看護学専攻 33コース、152回（疫学臨床研究、生物統計学など）
- ・卒後教育（研修医、看護師、地域医療者など）80コース、417回
（鏡視下手術トレーニング、医療安全など）

(2) コンピュータ試験の支援

医学科5年生 「総括試験」、医学科2年生 「総合試験」、など医学科で11回のコンピュータ試験実施の支援を行った。

(3) クリッカーを活用した授業等の支援

クリッカーの運用・管理、利用者への支援を行った。学生の授業、教職員の研修会で計4回利用された。

(4) eポートフォリオ

- ・医学科4－6年生の全科臨床実習、診療参加型臨床実習においてeポートフォリオの実施を支援した。
- ・看護学科全学年にeポートフォリオの実施を支援した。

(5) Zoom ミーティング

- ・同期型遠隔授業のために、Zoom ミーティングの教育プランの運用を開始した。

(6) エルゼビア eReview elearning

- ・医学科学生用のエルゼビア eReview elearning を全学年での利用を開始した。

7) テレビ会議システムの利用支援

4 機関合同の教育・研修活動の支援として、テレビ会議運営委員会を主管し、4 機関を接続したテレビ会議システムの使用を支援し、年間 9 回のテレビ会議システムの利用支援を行った。利用内容は 4 病院合同セーフティーマネージメント、新型コロナウイルス感染症対策特別講演会などであった。また、医学科分散授業のために、テレビ会議システムを拡充し、大学 1 号館 5 階講堂、6 階講堂、7 階実習室に増設した。

8) 市民ボランティア「あけぼの会」の活動

平成24年度より、学生、医師、看護師等への本学らしい医療者教育の拡充を目的に、一般市民ボランティア「あけぼの会」を組織し活動を開始した。この組織は、現在、医学科・看護学科の授業（演習、実習）で実践している市民参加型コミュニケーション教育や、医療面接教育への支援を主としている。令和 3 年 3 月 31 日現在の会員数は 32 名で、2020 年度の活動は次の通りである。

(1) 例会（ZOOM）

第 1 回例会 2020 年 10 月 31 日（土）11：00～12：00

(2) 授業への参加

医学総論Ⅲ演習（西新橋校）医学科 3 年 11 月 13 日（金）13：00～16：10

9) 公開講座

(1) 大学主催公開講座

2020 年度大学主催の公開講座においては新型コロナウイルス covid19 感染拡大予防のため中止となっている。NHK と共催しているみんなの健康教室は 6 回開催した。

10) アウトリーチ活動

アウトリーチ活動推進委員会（委員長：南沢享教授）が主体となり、大学の社会貢献の一環として、教育研究成果の中高校への還元を目的に次の活動を行った。

(1) 港区教育委員会との連携

- ・新型感染コロナウィルス感染予防として、感染症科堀野哲也准教授により港区教育委員会と連携して、動画「自分を守って相手を守る！医師から学ぶ感染対策」を作成し、港区小中学校での授業で活用された。港区長記者発表が行われ、好評を得た。

・御成門中学校との活動

3 月 16 日 3 年生授業「救急講習」 武田聡教授（救急医学講座）